

花育情報

☆花や緑に関する情報をお届けします。

<10月のお花> キンモクセイ



モクセイ科の常緑樹

母種はギンモクセイでキンモクセイは変種

原産国・・・中国

開花時期・・・9月～10月

花言葉・・・謙虚・真実・陶醉

花が白い
「ギンモクセイ」



暑い夏も終わり、涼しい風が心地よく歩いていると、どこからともなく甘くいい香りがするなあと周りを見るとキンモクセイの木が・・・このような経験をした人は多いと思います。

最近日本ではこの香りを使ったボディクリームやハンドクリームなどは大変人気があり、緑茶ベースにキンモクセイの香りに移した「桂花茶」や花を白ワインに漬け込み熟成させた「桂花陳酒」は楊貴妃が好んで飲んだと言われているそうです。

キンモクセイは香り花をつける秋の樹木として有名ですが、他には春はジンチョウゲ、夏はクチナシ、冬はロウバイなどが香りのする花をつける樹木として人気です。

【日本のキンモクセイはみ^{おす}(雄)だけ？】

日本にあるキンモクセイ、花は咲くのに実はなりません。それは雄株だからです。

ある説によると中国から日本に伝わる時に花付きのよいものを選んだ際、雄株ばかりになったということです。また挿し木で増やせることができたため雄株だけが日本中に広まったということかもしれませんね。

原産地である中国・南部地方でも雌株(♀)を見つけるのは難しくなっているそうです。



10月19日は花育の日

花育の日ってなあに？

「食と花の政令市」である新潟市において、より身近な生活の中に「花と緑」を取り入れて、花のある生活を普及推進するために、平成27年度から「花育の日・花育月間」を設けました。花育(イク)であることから19日とし、新潟市の花であるチューリップの季節である4月19日と、都市緑化の啓発普及期間内である10月19日を新潟市の「花育の日」とし、4月と10月を花育月間としました。

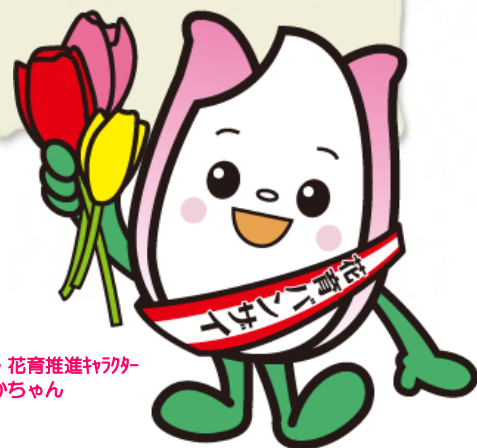
2019 新潟のチューリップ球根生産発祥 100周年 秋はチューリップの球根植えをしよう！



新潟市の花「チューリップ」、今はたくさんの種類があり世界では約5,600品種、日本では約2,600品種あると言われています。シンプルで一重咲きから八重咲・フリンジ咲など選ぶのも楽しくなります。最近では香りのする品種も出てきています。(香り品種代表はバレリーナやモンテカルロ)

チューリップは育てるのがとても楽で子どもでも簡単に植えられ手間もかかりません。そしてもっとも大事なのが冬の寒さ、私たちと一緒に長い冬を越え、春にはかわいい花を咲かせてくれます。秋はチューリップの球根植えの季節です。お花屋さんでお気に入りの球根を選んで植えてみてくださいね。

「雪かぶり きれいに咲くよ チューリップ」まいかちゃん作



花育情報のバックナンバーは新潟市ホームページへ

花育情報

検索



新潟市食育・花育推進キャラクター
まいかちゃん

<発行・問合せ> 新潟市農林水産部 食と花の推進課 食育・花育担当

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1 Tel:025-226-1792 Fax:025-230-0423

E-mail: shokuhana@city.niigata.lg.jp

【花育情報 no3 2019年10月発行】